

政策別評価

政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

◇施策(1) 人権施策の推進

目 標	基本的人権の尊重という普遍的な視点から、総合的・体系的な教育活動の推進、人権教育に係る学習機会の充実などに取り組み、社会的身分・門地(家柄)・人種・信条・性別・年齢・障害の有無等による差別のない、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重する社会を目指します。
担 当	学校教育課
取組状況	入間市人権教育推進委員会主催の授業研究会を年2回(小中で1回ずつ)実施、活用事例を『入間市の学校教育』に掲載し、市内各校への周知を図っている。また、入間市教育委員会主催の人権教育研修会を年3回実施している。そのうちの1回は、現地研修(フィールドワーク)を設定している。そのほか、県・地区・市主催の研修会(西部地区人権教育実践報告会、入間地区人権教育研究集会、入間市人権教育実践報告会)に各校の管理職を含め、積極的に参加している。
自己評価	A 授業研究会を年2回実施し、『人権感覚育成プログラム』の普及・啓発を推進することができた。また、部落差別解消推進法の趣旨をふまえ、市教委主催の人権・同和問題に関するフィールドワーク(現地研修会)では、若手教員の同和問題に対する意識の高揚を図ることができた。
今後の方向性	引き続き、年に2回の授業研究会を実施し、「人権感覚育成プログラム」のさらなる普及をめざす。また、「人権感覚育成プログラム」の指導とともに、部落差別解消推進法の趣旨をふまえ、人権教育の指導の工夫・改善を図るための研修及び授業実践を実施していく。
担 当	社会教育課
取組状況	人権問題を解決するための研修会を通して、広く市民に人権感覚を培う学習の機会を提供している。 各小中学校PTA家庭教育学級及び地区公民館において人権教育推進事業を実施した。また、人権教育実践報告会において、学校・PTA・公民館が今年度の人権教育の取り組み事例を報告した。
自己評価	A 毎年PTAから2校、公民館から1~2館を指定し、人権教育推進事業を実施している。目標どおり5講座ずつ実施し、市民の人権感覚を養うことができた。
今後の方向性	市民の身近な人権課題の解決に向けて事業を実施していく。また、性的少数者の人権をはじめとするさまざまな人権課題に取り組んでいく。

担 当	公 民 館
取組状況	広く地域住民に人権への意識を高める学習の機会を提供している。藤沢公民館・藤の台公民館において公民館人権教育推進事業を実施した。
自己評価	B 公民館人権教育推進事業として、東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、パラリンピック選手による講演、会場見学などを行い、タイムリーで話題性のある内容を取り入れることができた。しかしながら担当公民館以外での実施が少ない状況である。
今後の方向性	今後は全公民館で人権への意識を高める学習機会の提供に努めていく。

◇施策(2) 平和施策の推進

目 標	「入間市平和都市宣言」の趣旨に基づき、基本的人権の尊重という普遍的な視点から、平和の尊さについての啓発活動を推進し、平和意識の高揚を図ります。
担 当	学校教育課
取組状況	中学校全校において「平和を願う講演会」を実施し、戦争の悲惨さや平和の尊さを理解させるとともに、平和を願う心情や豊かな心を育み、平和意識の高揚を図る。また、各中学校が生徒の実態に応じて特色ある事前指導を展開し、生徒たちの、講演会に臨む意識を高める工夫を行っている。
自己評価	A 「平和を願う講演会」を中学校全校で実施することができ、平和の尊さを理解させるとともに平和を願う心情を育むことができた。各学校ごとに、生徒の実態に応じた特色ある事前指導が展開され、講演会を一層有意義なものとすることができた。
今後の方向性	引き続き、中学校全校での「平和を願う講演会」を継続していく。実施にあたっては、各校における事前指導の在り方に、さらなる工夫を促していく。

◆外部評価

◇施策(1) 人権施策の推進

学校教育課については、計画通りに事業を実施されたということで、自己評価はAとされておりま
す。たしかに、事業実績の評価という点では妥当であり、実際に素晴らしい成果を上げられていると
言えます。前年度評価においても同様の指摘をさせていただきましたが、欲を言えば、研修会に参
加した教員の率、参加した教員の学習成果(アウトカム)、作成した資料の効果測定、児童・生徒の
応募・出品率など、幅広い評価を実施することが望まれるのではないのでしょうか。この点につきまし
ては、他にも散見されますのでご検討いただけると良いかと思えます。

社会教育課については、DVDの購入数、視聴者数、家庭教育学級の参加者数等、数値を示して
おられます。この数字がどのような意味を持つのか、例えば、全保護者数と参加保護者数の割合、
前年度との比較を示すなど対応いただけると良いかと思えます。

また、事業評価点数の主な理由に「参加者の感想も好評であった」とあります。実績だけでなく、
学習者の学習成果を評価に取り入れるという点は素晴らしいと思います。今後は、好評という点だ
けでなく、各事業の学習目標との関連で、学習目標、言い換えれば学習者の達成目標の達成率な
どをお示しいただけると良いのではないのでしょうか。

なお、課題及び改善点に「過去に購入したビデオでも視聴できる内容のものもあり、ビデオから
DVDへ更新する必要がある」とありますが、著作権法上、誤解が生じる恐れがある表現かと存じま
すのでご再考いただきますと幸いです。

人権教育推進協議会の開催につきましては、意見聴取を行う貴重な機会ですので、計画通り実
施できるよう検討いただければと思います。また、評価については、実施回数だけでなく、実施した
成果を何らかの形で表していただけると良いと思います。

公民館については、事業評価点数の主な理由に点数化の根拠が示されている点については評価
できますが、3.5点の内訳をお示しいただくと良いかと思えます。また、満足度については、上述した
とおりで、学習目標の達成度を指標とすると良いのではないのでしょうか。

◇施策(2) 平和施策の推進

中学校全校で実施され、事前指導を行うことによってより効果が上がっているとのことですが、具
体的な効果について数値でお示しいただけると良いのではないのでしょうか。

平和ポスターコンクールについては、昨年度実績を大きく上回る319点の応募と、各学校でのご指
導の成果が上がっていると評価できます。ただ、319点という数値の持つ意味をどのように捉えれば
良いのかという事について、踏み込んだ記述があればよいと思います。

政策2 生涯学習

第1項 生涯学習の推進

◇施策(1) 学習環境の充実

目 標	市民のだれもが、いつでも、どこでも主体的に学習に取り組むことができ、だれもが気軽に参加できる学習機会の提供などを市民との協働により進めることで、学習環境の充実を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	だれもが気軽に参加できる学習機会の提供のため、生涯学習情報紙「かがやく」や「生涯学習ガイドブック」等を発行した。併せて、ホームページに掲載した。茶の都出前講座を行い、市民の学習活動を支援した。
自己評価	A 生涯学習情報紙「かがやく」については、編集ボランティアの協力により発行することができた。 生涯学習茶の都出前講座については、入間市の歴史やお茶に関する講座を中心に実施することができた。
今後の方向性	多種多様な市民のニーズに応えられるように情報発信を行っていく。

◇施策(2) 学習活動の充実

目 標	多様化するライフスタイルに応じた現代的・社会的課題や目標を、市民や市民活動団体が共有し、学び合い、支え合い、高め合えるような学習活動の充実を目指します。
担 当	社会教育課
取組状況	市民がともに学び合うための環境整備に取り組むために、生涯学習をすすめる市民の会と協働して事業を行った。 子供の学ぶ力や生きる力の向上を目指し、また、その知的好奇心を刺激する学びの機会を提供することを目的として子ども大学さやま・いるま、子ども音楽大学いるまを実施した。
自己評価	B 二つの「子ども大学」事業は定員を越す申込みがあり、大変好評の事業であった。 「まちの先生講座」や「生涯学習けいじばん」など生涯学習をすすめる市民の会と協働して実施できた。
今後の方向性	子ども音楽大学いるまについては、武蔵野音楽大学の大学機能が移転しており、実施について調整を行っている。 生涯学習をすすめる市民の会については、会員数の減少が問題となっているので、幅広い年齢層の会員拡充が課題である。 入間市生涯学習推進会議については、生涯学習の方向性や関連団体が持つ資源等の紹介ができる会議の実施を検討する。

担当	公民館
取組状況	地域住民が自ら企画運営する事業の支援と、世代間交流事業、地域交流事業を実施した。
自己評価	A ----- 地域住民が自ら企画運営する事業の支援ができた。また、交流事業を実施することで地域の交流を図ることができた。
今後の方向性	地域課題を的確に把握し、課題解決に向けた地域の人材発掘・活用をすすめる。交流事業を継続し地域コミュニティの充実に努めていく。

◇施策(3) 学習成果の活用

目標	学習を通じて地域課題の共通理解を進め、市民のまちづくり活動への参加を促進するなど、学習成果の地域への還元を促進するための仕組みや環境を整備します。
担当	社会教育課
取組状況	生涯学習活動の成果、活動状況の発表の機会を提供する目的で「文芸入間」の発行や生涯学習フェスティバルを実施した。 市民活動団体との協働により、学習成果を地域やまちづくりに活かすことを希望する市民を講師としたまちの先生講座を実施した。
自己評価	A ----- 文芸入間については、編集委員の協力により発行することができた。特集記事に関する読者からの評価が高く、良い作品となった。
今後の方向性	「文芸入間」については、投稿者の高齢化及び減少が見られるので、新たな投稿者拡充が必要である。また、投稿者の質の向上を図るため文芸教室を開催する。 生涯学習フェスティバルやまちの先生講座については、現代的・社会的課題の課題につながる企画となるようにする。
担当	公民館
取組状況	地区文化祭や各種芸術の発表会等は地区文化協会や各種団体との共催により盛大に開催することができた。
自己評価	B ----- 地区文化祭や各種芸術の発表会等は地区文化協会や各種団体との共催により盛大に開催され、学習の成果を発表することができた。今後も協力体制を継続しながら実施していく。
今後の方向性	今後も地区文化協会や各種団体との協力体制を継続しながら、学んだことを地域に生かす事業の充実に努めていく。

◆外部評価

◇施策(1) 学習環境の充実

学習情報の提供においては、印刷メディアである生涯学習情報紙、インターネットと多様なメディアを活用し、積極的に情報を提供しておられます。今後はSNS等の活用も検討いただけるとよいのではないのでしょうか。「インターネット等を活用した学習情報の提供」の事業実績が「ほぼ計画通り実施」とありますが、なぜ「ほぼ計画通り実施」なのでしょう。

学習機会の充実、「生涯学習茶の都出前講座」の充実は「計画通り実施」とありますが事業評価点数3となっています。どちらかの記述が間違っているのでしょうか。また、事業目標の40回というのは、どのような根拠から設定されたのでしょうか。なお、市内高等学校からの利用があった点については、学校教育との連携・協働の点からも評価できます。

◇施策(2) 学習活動の充実

入間市生涯学習推進会議の開催については、昨年度も実施できなかつたと記憶しております。次年度の実施に向け、課題を整理していただきたいと思います。

市民活動団体への活動支援、市民団体、大学等との連携事業の実施など、計画通り実施できたとして5点となっておりますが、今後は、実施回数以外の観点による評価を行うことも必要かと思われます。

◇施策(3) 学習成果の活用

生涯学習フェスティバルの開催は「計画通り実施」できたにも関わらず、評価点数が4点となっております。何か理由があるのでしょうか。

まちの先生講座の開催については、具体的な事業目標を設定することが望まれます。また、事業評価点数の主な理由に、参加者の93%が満足とあります。たしかに、参加者が満足することは重要ではありますが、他の指標も検討いただけるとよいかと思えます。

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

◇施策(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

目 標	児童生徒に対する教育的支援の充実を図り、子どもたちの「生きる力」を育みます。
担 当	教育総務課
取組状況	良好な教育環境を確保するために、教育教材、管理備品、図書等の整備・充実を図る。
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>小中学校で使用する教育教材、管理備品を計画的に購入することにより、学習効果が高まった。 図書の整備については、各学校の学校図書館図書標準の達成(充足率100%)を目指した結果、平成31年3月末の充足率の平均は小学校で89.64%中学校では81.01%であった。 教育用コンピュータの更新に伴い、小学校4校については、コンピュータ教室のコンピュータの台数を40台とし、児童一人につき1台配置することができた。</p>
今後の方向性	財政状況は厳しいものの、教育活動に支障をきたすことがないよう、教育教材、管理備品、図書等の更新に努める。また、図書の整備については、学校図書館図書標準の達成(充足率100%)を目指す。
担 当	学校教育課
取組状況	<p>平成27～29年度の3年間をかけて全中学校区における「小中一貫教育」の研究発表会を実施し、学校経営の充実を図ってきた。来年度以降も研究の継続が図れるよう、小中一貫サポーターを全小学校に配置した。 毎学期実施している生徒指導訪問により、学校の生徒指導、教育相談上の課題をきめ細かく把握することで、市役所、警察等の関係部署とのスムーズな連携につながった。 幼稚園、保育所(園)、小・中学校への巡回支援、特別支援学校との連携を、発達に課題がある子供への早期支援や子供が学ぶ環境の充実につなげた。 次期学習指導要領への対応として、小学校での英語教育を充実させるためAETの1名増員を図った。兼務を進め、全小学校にAETを配置することで、小学校教員の負担軽減を図り、教育活動の充実につなげた。 中学校進学前の学用品費入学前支給を継続実施することで、経済的な支援が必要な家庭を確実に支援し、子供が安心して学校に通える環境づくりを進めた。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>異校種間の滑らかな接続を目指し取り組んできた「子ども未来室事業」をさらに推進するべく、全中学校区で実施し全国に発信してきた「小中一貫教育」の成果は非常に大きいものであったと捉えている。小中の教員の相互理解が深まり、9年間の見通しをもった指導や小学生と中学生の交流が充実してきている。また、「地域交流研修会」の開催等の家庭・地域を巻き込んだ教育活動の推進は大きな成果といえる。 子どもたちの「生きる力」の育成を図る上で、落ち着いた学校生活を送ることが重要である。各種の巡回指導、支援やAETの増員、安心して学校に通えるための家庭への援助等は、学校の教育活動を支える重要な施策であり、以前見られた学校の「荒れ」が見られなくなった現在の本市の小・中学校はそれらの施策の有効性を示しているものといえる。</p>

今後の方向性	学校と市教委、関係諸機関が情報を共有し、時機に応じた適切な対応を行える体制を今後も継続する上で、これまでの施策をさらに充実・発展させていく。 学習指導要領の改訂に合わせ、子どもたちに「生きる力」を育むこれからの教育課程の在り方について、学校と共に研究していく。
--------	---

◇施策(2) 学校教育内容の充実

目 標	子どもたち一人ひとりについて、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を目指します。
担 当	学校教育課
取組状況	2年に1回実施される学校指導訪問は、教育事務所と連携し、指導主事がマンツーマンで授業者を指導する貴重な機会であり、今年度も計画通りに実施することができた。 新たな教育課題への対応や教職員の負担軽減を考慮、市教委主催の研修の内容、回数等を精選し実施することができた。 ふるさと入間を愛する心の育成を図る上で、これまでも継続してきた「狭山茶とふれあう教育」については、小・中学校ともに教育課程に位置づけ、確実に実施することができた。特に、中学校における盆略点前の学習は、小中一貫教育における小学生、中学生の交流にも活用され、豊かな心の醸成を進める活動にすることができた。 体力向上については、新体力テストの結果の分析を各学校に通知し、全校で体力向上推進委員会を中心とした組織的な取組に反映させることができた。
自己評価	B ----- 確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成に向けた教職員の資質の向上に向けた研修については確実に実施されているが、研修の成果が各種の学力調査の結果等に反映されているとまでは言えない現状である。年々経験の浅い教員の割合が増える傾向にある本市においては、人材育成は成果の出る教育を推進する上で大きな課題といえる。 外部との連携が必要な研修が諸事情により実施できないこともあったが、概ね計画通りの教職員研修を進めることができたと捉えている。 新体力テストの結果もここ数年は上昇傾向にあり、今年度過去最高の数値を残すことができた。
今後の方向性	計画されている施策・事業を確実に実施し、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を推進する。
担 当	学校給食課
取組状況	旬の食材や地場産(県内産・入間市産)の農作物を使用した給食の提供を行ったり、月1回の行事食の提供を行った。
自己評価	A ----- 国内産の食材を使用した季節感のある給食の提供ができた。また、食材の放射性物質検査や残留農薬検査を実施した。また、調理員等の保菌検査や研修等を行い、その安全衛生管理の向上に努めた。
今後の方向性	旬の食材や地場産物(県内産・入間市産)の給食の提供や月1回の行事食は継続していく。 食品検査、残留検査等の衛生に関する検査についても継続していく。

◆外部評価

小中一貫教育の取り組みを通しての成果は、おおむね自己評価も高く、なおかつ事業も具体的であり、現場の学校が、意欲的に取り組んでいったことが表れています。例えば学力向上及び生徒指導の充実においては、目標の27校すべてで取り組むことができ、授業指導の充実や内容に関しても合同研修や、学校種間の指導法などと具体的記述の中で、現場教師の交流が見えてきます。ただ委嘱研究の内容や成果に具体的記述があれば、もう少し評価の確実な根拠となったでしょう。

文部科学省発表による2017年度の小学校・中学校における「いじめ」件数は調査開始以来最高の41万4378件です。この事実を重く受けとめたいです。「いじめ防止基本方針」に基づく指導において、事業評価「4」は現在の教育状況を俯瞰する中で、最重点としてもいい取り組みとなります。つまり、調査審議会や連絡協議会の開催や情報交流だけではなく、学校における教育内容、また地域における多様性を認める取り組みを推進する中で、一人一人に責任を押し付けず、環境や、構造でその解決に向かう取り組みを進め、評価「5」を早い段階でつけられるようにしたいものです。また小学校・中学校における不登校児童生が14万4031人(2017年度報告)となった今、学校やさわやか相談室や、教育センター相談室等、丁寧な取り組みが進められてはいますが、評価点が「4」となっています。市長部局の事業として触れられている「アスポート事業」や子ども支援課の「一人親家庭の学習支援」をより拡充させていく必要があります。これは文部科学省の施策でもある「教育機会確保法」の目的:「第一条 この法律は、教育基本法(平成十八年法律第二十号)及び児童の権利に関する条約等の教育に関する条約の趣旨にのっとり、教育機会の確保等に関する施策に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、基本指針の策定その他の必要な事項を定めることにより、教育機会の確保等に関する施策を総合的に推進することを目的とする」に倣って行われなければならない取り組みでもあり、早急に着手すべきです。ただ、不登校の原因の一つである『貧困』に対して経済的支援の周知に取り組んでいることは評価できます。

新学習指導要領の実施にともなう「インクルーシブ教育」や「主体的・対話的な深い学び」に関して、教育内容として取り組まれており評価したいです。ただ先述したように具体的な方法や成果を記述することも求められるでしょう。ICT教育充実のための電子黒板やプロジェクターそしてタブレット、PCなどの整備においては、その重要性を理解しつつ、徐々に実現させていくことに評価をしたいと考えています。これは一部局で解決できるどころでもなく、部局横断的な検討が必要だとも考えています。

教員資質向上に関しては、初任教員の研修、しかも「寄り添った」とあえて記述されている取り組み、評価「5」が頼もしいです。また近年増加し、学校現場では頼らざるを得ない「臨時的任用教員」の服務規程の確保、スキルアップを目指す研究の充実の評価が「5」であることを評価したいです。ワークショップ形式などの主体的な取り組みが特筆すべきだとも考えられます。しかし、学校を担う中堅、スクールリーダーの育成研修に関しては、評価の主な理由に何度も繰り返しますが、具体的な取り組みと成果を期さない限り、評価できません。

体験活動に地域の視点や教育を取り入れ、狭山茶などの特産物に触れ、郷土の歴史や実際に体験する教育内容はすばらしく、子どもたちの地域で生きるための力を育成していると考えます。ただ、その場合も、人間市博物館での学習のように、教科と連携し、科学と事実による指導が子どもたちの科学的認識を育て、「わかる」ことにより郷土への『理解』や「共感」が生まれてくるものだと考えます。

体育授業や体育活動の評価が「3」でしたが、なぜ小学校の30分以上、中学校で35分以上の運動場面の確保が必要だったのか、やはりここでも取り組みの内容と成果を具体的、または科学的に記述することが求められます。

第2項 子ども・子育て支援の充実

◇施策(1) 幼児教育の環境整備

目 標	人間形成において、非常に重要な役割を持つ幼児期の教育の充実を図ります。
担 当	学校教育課
取組状況	子ども未来室事業の取組として、「遊びと学びの手引き」や「育ちの記録シートおちゃめ」を活用している。「遊びと学びの手引き」では、幼児期・児童期の子どもの発達に即した活動例を提案することで、「育ちの記録シートおちゃめ」では、生まれた時から現在までの子どものことを記録することで、それぞれ、子どもの学びや育ちの連続性を図っている。また、保育士や幼稚園教諭の専門性を高めるため、臨床心理士や作業療法士による巡回支援や様々な研修会を行っています。これらの取組をととして、子どもの特性を理解した適切な支援が行われることを目指している。発達の課題のある子どもに対して幼児の通級指導教室「茶おちゃお」において、各施設と連携をしながら、子どもにあった支援を行うことで、小学校へのなめらかな接続が行われることを目指している。
自己評価	A 「遊びと学びの手引き」の活用については100%を達成している(保幼小において)。 小学校でwiscを受ける児童の割合が小学校1年生では全体の1%にも満たない。これは、小学校への接続が上手くいっており、1年生では相談をする件数が少ないからだと考えられる。 臨床心理士・作業療法士の巡回を利用する施設は36施設であり、これも100%の施設が利用している。保幼小合同の研修や保幼小中の連携接続研修にも毎回150名近い方が参加している。
今後の方向性	発達に課題のある子どもへの支援として、保幼に「茶おちゃお」担当者の訪問等を行っていきたい。 保幼小の合同研修会等のより一層の充実を図りたい。

◆外部評価

市長部局との連携の充実の項目ですが、評価「5」の根拠が理由に記述されておらず、やはりここでも具体的な方法と成果を、この場合は連携の方法や、見てきた具体的な方法の実際を知らせてもらいたいです。

私立幼稚園における入園料・授業料無料に関する取り組みは、すでに周知されているかとは思いますが、本年度より無償化がはじまり、自治体の対応、特に無認可保育園等の取り扱いが注視されております。この点も踏まえた課題及び改善点の記述があると親切だったようです。

実際の派遣の実績のある、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに関しては部署が違うのか、記述が見当たりませんでした。今後子ども・若者支援には、学校での教育以外に心理的なアプローチ、福祉的なアプローチを専門家が担う必要があり、その教育の成果が記述されることが必要だとも考えます。

第3項 学校施設の整備

◇施策(1) 学校施設の充実・最適化

目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再配置に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進めます。
担 当	教育総務課
取組状況	統廃合の方針として、『入間市立小・中学校の規模及び配置の適正化に関する基本方針』に基づき、適正な規模と配置を検討してきた。特に、第1期の事業計画については、児童生徒数の推計により、各校の普通教室数を対比しながら、統廃合における各施設整備の課題を抽出するなど、より具体的なシミュレーションを行うと共に、公共施設マネジメント事業計画市民説明会における意見も加味して検討を続けてきた。
自己評価	A 平成30年度の上半期は、上記の基本方針を踏まえ、適正な規模と配置の検証を行いながら、公共施設マネジメント事業計画の策定に向け、関係課との意見交換を行った。また、下半期では、大まかではあるが、児童生徒数の推計により、統廃合を行った場合の課題を抽出することができた。
今後の方向性	上記の基本方針及び公共施設マネジメントの考えを踏まえ、平成31年度中に「学校施設個別施設計画」を策定したうえで、施設の再配置やサービスの適正化など、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進める。

◇施策(2) 学校給食施設・設備の充実

目 標	学校給食にかかる施設や設備の改修、改善等を適切に行い、安全・安心でおいしい給食の安定的な提供を確保します。
担 当	学校給食課
取組状況	老朽化した調理機器の入れ替えを行い、効率的な施設の運営管理に努めた。また、食器の入れ替え(ポリエチレンナフタレート製食器)を4校実施した。
自己評価	A 機器更新により給食調理作業の効率性が維持されたほか、自校給食校4校においてアルマイト製食器をポリエチレンナフタレート製食器に入れ替えたことにより、見映えもよくなり、給食の質が向上した。
今後の方向性	機器の更新は、老朽化の状況に応じ行い、食器の入れ替えについても、残りの自校給食校に早期に実施出来るよう努める。

◆外部評価

先述しましたが、学校施設の整備については予算という枠があり、横断的な検討事項でもあると考えます。ただ、今回の評価における金子小学校の屋内運動場改修工事に関して工事管理業者の不手際については、直接生徒たちの不利益につながる不手際であり、記録にとどめておくとともに、学校への配慮や新たな施策が必要ではなかったでしょうか。できるだけ早くの取り組みはもちろん、近隣の小中学校との連携や公的施設の活用など、見当違いな指摘かも知れませんが、実際にさいたま市では近隣の学校での体育施設の相互利用の例もあり、指摘させていただきました。

政策4 社会教育

第1項 社会教育の充実

◇施策(1) 社会教育環境の充実

目 標	市民の主体的な学習活動や仲間づくりを促進し、活力ある地域づくりに資するため、「個人の要望」を踏まえるとともに「社会の要請」を重視した学習の機会及び情報の提供の充実を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	学びと実践があふれるまちをめざして、小中学生の夏休み体験一覧表を作成した。また、楽しみながら勉強することを目標に、いるまキッズアカデミーを2回開催した。
自己評価	A 夏休み体験一覧表を全小中学校に配布したことにより、小中学生の参加を促すことができた。 いるまキッズアカデミーについては、英語と理科の2回実施し、多数の応募があった。参加した児童や保護者のアンケートも好評であり、概ね事業が達成できた。
今後の方向性	体験一覧表を作成することにより、市内各地で実施している事業について周知ができ、参加を促すことができた。配付時期を再考し、より多く参加できるように努める。 いるまキッズアカデミーについては、参加者のアンケート結果により、内容を検討し継続して実施する。
担 当	博 物 館
取組状況	社会教育施設として展示事業、教育普及事業を行うとともに、事業を市民へ伝える為の広報活動や、全ての土台となる調査研究活動を進めている。
自己評価	A 14期目となった今でも好評の「ALITお茶大学」や、新聞で4回取り上げられたむかしのかしと道具展等を鑑み、A評価とした。
今後の方向性	広報誘客業務は指定管理者が担うこととなったが、訪れた来館者が「学び」を感じるような事業展開を心がけていく。

担 当	図 書 館
取組状況	<p>図書館資料の充実を図るため、児童書を2,933点、一般向けの図書を7,435点、参考図書を296点、大活字本を111点購入した。また、視覚障害者の読書推進のため録音資料4点を作成した他、新たに雑誌スポンサー制度を設け、市内企業より雑誌21種の寄贈を受けた。</p> <p>資料の選定においては、個人の要望であるリクエストと社会の要請である現代的課題を考慮した。</p> <p>魅力ある図書館づくりを推進するため、レファレンスサービス対応のための研修会など様々な研修会に参加し、職員の資質向上に努めた。</p> <p>読み聞かせボランティアの活動の場である「おはなし会」を全館で延べ367回開催したことや、子ども読書推進策として「あれこれブックガイド」の配布や「読書ラリー」を実施した。</p> <p>図書館利用促進事業として、「人形劇」や「おたのしみ会」、「児童文学講演会」などを開催した。また、分館においては、指定管理者ならではの特色ある自主事業を47事業実施すると共に、視聴覚ライブラリーを活用した映画会を24回開催した。</p> <p>広報面では図書館ホームページの充実を図ったことや、コミュニティFM放送やCATVに出演するとともに、「広報いるま」に図書館トピックス特集記事を掲載すると共に、図書館だよりを4回発行した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>蔵書資料の充実については、適切な選書作業により、新規購入及び寄贈資料からの選定を行い、更に資料の除籍を併用して図書館資料の更新を行い、資料点数574,964点となり、資料蔵書目標60万点に一歩近づいた。</p> <p>利用促進事業については、計画通り実施できた。</p> <p>広報面においては、ホームページや各種メディア、広報紙等により、図書館情報を提供することができた。また、メールアドレス登録者には新刊案内などの最新情報の提供ができた。</p> <p>貸出点数については、855,095点と前年度を上回ったものの、年間貸出目標90万点には及ばなかった。</p>
今後の方向性	蔵書資料については更なる充実を目指す。図書館入館者と貸出点数の増加を目指し、利用促進事業や広報活動の充実を図る。
担 当	公 民 館
取組状況	各館が公民館基本計画で掲げた学習課題を積極的に取り上げている。参加者の満足度が上がるよう努めながら事業を実施している。
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>各公民館が公民館基本計画で掲げた学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施することができた。</p>
今後の方向性	単に趣味、教養を身につけるためだけの学習ではなく、社会の要請に対応した学習機会を提供していく。多様化、高度化する地域住民の学習ニーズに対応できるようにするために、関係機関等の専門性を生かした連携事業を実施していく。

◇施策(2) 家庭・地域の教育力の向上

目 標	家庭・学校・地域が連携した子育てへの取り組みや家庭教育を支援し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	各小中学校PTAによる家庭教育学級を実施し、家庭教育の向上に努めた。また、市青少年健全育成推進協議会、市PTA連合会、市子ども会育成会連絡協議会の3団体との共催により講演会を実施した。
自己評価	B ----- 家庭教育学級については全27PTAで5回以上の講座を実施し、延べ135講座を実施した。3団体で構成された実行委員会と共催で開催した地域教育フォーラムは昨年度より参加者数が増加しており、参加した方のアンケートは概ね好評であった。
今後の方向性	PTA家庭教育学級については、多くの方が参加できるように検討しているが、役員の参加がほとんどであり、一般参加者がいない事業もある。回数を減らすなど、あり方について検討する必要がある。地域教育フォーラムについては、毎年、参加者が減少していたが若干増加した。参加者のアンケート結果については概ね良い評価を受けているが、事業開始の頃とは社会情勢も変化しており、事業継続について検討する必要がある。
担 当	博 物 館
取組状況	社会教育施設として、郷土に関連した事象やお茶に関する展示事業・教育普及事業、ときには出前講座等を行うことで、家庭・地域の教育力向上に寄与している。
自己評価	A ----- 年間30回を超える出前講座を実績し、受講者からのアンケートも概ね良好との結果であったことから、市民のニーズに応えられるような講座が実施できたと判断した。
今後の方向性	出前講座を希望する時期やテーマが偏ってしまい、全てを希望通りに引き受けることは困難な状況である。館の職員数も減少するため、会場を博物館内にして同様の事業を展開できないか、検討していきたい。

担当	図書館
取組状況	<p>小学校3年生を対象とした図書館見学や、小学校2年生を対象とした図書館利用教室を市内全校を対象に実施し、16校中15校の参加を得た。また、子どもたちを対象とした「プチ一日図書館員」を実施した。</p> <p>学校図書館ボランティア育成のための研修会を開催し、多数の参加を得た。移動図書館車の学校(8校)への定期的な巡回も継続できた。</p> <p>配本サービス利用は前年度と同様、39箇所維持できた。</p> <p>ブックスタートにかかる予算確保が進まず全庁的な子育て支援策としての連絡調査は実施できなかったものの、ブックスタート関連事業を12回実施できた。庁内関係課・所との連携協力による事業は9事業実施できた。</p> <p>分館においては、公民館との連携協力による事業を5事業実施できた。</p>
自己評価	<p>A</p> <p>子どもたちの学習活動や読書活動の充実を図るため、学校と連携した事業を実施できた。</p> <p>生活の中での「読書活動」の重要性を伝える事業や、親子の読書活動のきっかけ作りとなる事業を進めている。</p> <p>学校図書館ボランティア団体の支援や、関係者との情報交換なども実施できた。</p>
今後の方向性	<p>家庭・学校・地域との連携を強化し、読書を通じた子供たちへの教育力の向上に努める。</p>
担当	公民館
取組状況	<p>各公民館が地域の力を生かした子育て支援事業の実施と家庭教育向上のための学習機会を提供している。</p>
自己評価	<p>A</p> <p>母子愛育会等の子育て支援団体の協力により、子育て教室など親子で楽しめる子育て支援事業を実施することができた。</p>
今後の方向性	<p>妊娠中の親や乳幼児を持つ親が自信を持って子育てができるようになるために地域ぐるみの取組ができるよう支援していく。</p>

◇施策(3) 青少年教育の充実

目標	<p>市民や地域との協働により、青少年の自尊感情・自己有用感及び社会性・創造性を育み、社会を生き抜く力の習得を図ります。</p>
担当	社会教育課
取組状況	<p>大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする男女青年を祝い、励ますことを目的に成人式を実施した。</p>
自己評価	<p>A</p> <p>成人式案内状をわかりやすくするため、案内状にQRコードを記載し、詳細について市ホームページを閲覧して頂いた。閲覧件数も増加し、さらに出席者数の集計作業も簡素化され業務時間の短縮につながった。</p>
今後の方向性	<p>成人年齢引き下げにより18歳成人となるため、式典対象年齢の検討を行う。</p> <p>今後も成年に達した男女青年の新しい門出を、地域の方々に祝福できる成人式となるように実施していく。</p>

担 当	公 民 館
取組状況	各公民館が、青少年が豊かな心を育む事業を実施している。
自己評価	B ----- 各公民館が、夏休みを中心に青少年の体験事業を実施することができた。また、夏休み・春休みの長期休暇に空き室を開放し子どもの自習・読書等を行う学習場所提供事業を実施し、子どもの居場所づくり事業に努めた。
今後の方向性	青少年の豊かな心を育むために、社会奉仕体験活動や自然体験活動等の機会を地域ぐるみで提供していく。 子どもや高齢者など地域の人が公民館を居場所として集い、地域づくりに結びつく事業の実施に向け検討していく。

◇施策(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

目 標	先人が守り伝えてきた市内の貴重な文化財及び伝統文化を未来へ継承するとともに、地域に根ざした文化財を活かした事業を実施することで、市民の郷土意識を育みます。
担 当	博 物 館
取組状況	指定文化財の保護や埋蔵文化財の保存に必要な事業を実施している。西洋館や旧黒須銀行では、一般公開や各種事業を行うことで、保存とともに活用を図っている。
自己評価	A ----- 指定文化財や埋蔵文化財については、適切な保存を図ることができた。西洋館では、一般公開とともに魅力ある事業を実施したことで、目標を上回る来館者があり、多くの市民に西洋館の保護啓発を行うことができた。また、旧黒須銀行では、庁内における検討委員会を組織して、今後の保存活用の市としての方向性を検討することができた。
今後の方向性	今後も引き続き文化財の適切な保護保存を行っていく。西洋館については一般公開や各種事業の充実を図るとともに、効果的なPR方法を研究し実施することで、多くの市民に来館してもらえるように努めていく。また、旧黒須銀行については、市民とともに具体的な保存活用に向けた計画づくりを進めていく。
担 当	公 民 館
取組状況	地域の伝統文化を守り育む事業を実施している。
自己評価	B ----- 文化活動団体と協働により地域の伝統文化を守り育む事業を実施することができた。役員の高齢化により、若い世代の取り込みが課題となっている。
今後の方向性	今後も文化活動団体の活動を支援するとともに、地域の伝統文化を守り育む事業を実施していく。

◆外部評価

◇施策(1) 社会教育環境の充実

全体として、実施回数、申込数などの事業実績(アウトプット)により評価を行っていますが、内容に関わる評価(アウトカム評価)を取り入れていただきたいと思います。

博物館、図書館は、一部改善が必要な事業もありますが、それぞれの事業評価点数が高く、充実した事業運営がなされています。さらなる充実が期待されます。

一方、公民館に関しては、安心安全な暮らしのための学習機会、人権への意識を高める学習機会の提供の事業評価点数が低くなっています。いわゆる「社会の要請」による学習は、個人の学習ニーズとマッチしないことが多く、「個人の要望」と合わせるような形で実施するなど工夫・改良していくことが求められます。また、参加者の固定化が課題とされていますが、学習に参加したことが無い方の参加を促すべく、学習情報提供や学習相談の充実、事業の開催日時の検討などの対応が望まれます。

◇施策(2) 家庭・地域の教育力の向上

全体として、実施回数などによる評価が目立ちますが、できるだけ、学習者の変容や地域社会への波及などのアウトカム評価も併せて行うよう検討いただければと思います。

家庭教育学級については、PTA毎に5回実施するなど多くの事業が実施されているものの、一般会員の参加がほとんど無い事業があるなどの課題もあるようです。親同士の学び合いは重要です。学校と連携してより多くの会員が参加できるよう、内容や開催日時を検討していただきたいと思います。

博物館、図書館については、概ね事業目標を達成しているようです。さらなる充実が期待されます。

なお、「ブックスタート事業実施に向けた市内連携会議を開催」については、何の予算が確保されていないのでしょうか。「全庁的な子育て支援策の一つとしてのブックスタート関連事業」は実施されているようですが、別の事業でしょうか。

◇施策(3) 青少年教育の充実

成人式については、取り組みにより、出席率が上昇したということでしょうか。前年度の数値をお示しいただくとよいと思います。また、出席率以外の評価指標を検討いただけるとよいのではないのでしょうか。

公民館の事業については、事業評価点数4.43の理由をもう少し詳しく(例えば事業毎の評価を示すなど)説明いただけるとよいと思います。意見を述べる材料が少なく、コメントすることが難しいです。

◇施策(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

博物館については、すべての事業評価点数が5であり、効果的に事業が行われていると思われまます。事業実績を踏まえ、事業の直接的な効果、波及効果についての評価を試みることを望まれます。

公民館については、青少年教育の充実でも述べましたが、事業評価点数4の理由をもう少し詳しく(例えば事業毎の評価を示すなど)説明いただけるとよいと思います。意見を述べる材料が少なく、コメントすることが難しいです。

第2項 社会教育施設等の整備

◇施策(1) 施設の充実・最適化

目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再配置に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から社会教育施設の最適化を進めます。
担 当	博 物 館
取組状況	市内に同種の施設設備は存在しないため、適切な修繕をしながら長寿命化を図る方針に則り、予算計上等を行っている。
自己評価	B ----- 博物館としての施設の現状に応じた実施計画、予算要求をしているが、そのように査定がされず、適切に修繕等が行われていない箇所もあるためB評価とした。
今後の方向性	今年度から施設設備の管理運営は指定管理者の業務となっているが、適切にモニタリングを行い、公共施設マネジメント推進課とも連携を図り、計画的な施設の維持に努める。
担 当	図 書 館
取組状況	図書館内の設備の更新等、充実を図る。 図書館システムについては、安定的な運用に努める。 広域連携を充実させるため、埼玉県西部地域まちづくり協議会や、青梅市図書館との情報交換を図る。 公共施設マネジメントによる図書館改修を進める。
自己評価	B ----- 図書館内の設備については、本館のDVD棚増設や図書等持ち運び用ショップかごの新設、閲覧席衝立の新設を行ったほか、西武分館の受水槽ポンプの交換修繕ができた。 図書館システムについては小規模なシステム障害はあるものの、安定的運用が図れた。 ダイア4市や青梅市との相互利用者数の増加やサービス向上に努めた。しかし、相互利用者数については、前年度に比べ減少してしまった。 公共施設マネジメントによる図書館改修については、課題を抽出し関係課と協議できた。
今後の方向性	図書館内の設備については、今後も更新を継続する。 図書館システムについては、引き続き、安定的運用に努める。 広域連携については、更なる強化とサービス向上について研究するとともに、新たな連携を模索する。 図書館の新たな役割として、市民の居場所としての施設、設備を計画的に更新できるよう、公共施設マネジメント整備計画の中で対応を進める。

担当	公民館
取組状況	計画していた公民館の工事・修繕を実施することができた。
自己評価	A 緊急性の高い工事・修繕を優先して公民館の施設整備を実施することができた。また、公民館のバリアフリー化対策としてトイレの洋式化工事を実施することができた。
今後の方向性	今後も計画的に施設の工事・修繕を実施していく。大規模的な修繕については、公共施設マネジメント推進課と協議を行いながら実施していく。

◆外部評価

◇施策(1) 施設の充実・最適化

施設の充実・最適化については、計画通り、着実に実行されていると思われます。学習者が利用しやすい、ホスピタリティ溢れる社会教育施設となるよう、さらなる充実、最適化に励んでいただきたいと思います。

また、前年度も述べましたが、市民の皆様に施設に関して意見を聞くなど、進捗状況以外の方法を評価に取り入れるなどの工夫をされるとよいと思います。